

# 牧草の大量要素欠乏症

## (Ⅲ) 牧草の石灰欠乏

\* 石塚喜明

\*\* 原田 勇

\*\*\* 林 満

\* 北海道大学農学部 土壤肥科学教室 教授

\*\* 酪農大学助教授 \*\*\* 北海道農業

試験場 畜産部草地土壤研究室 技官



Red clover (赤クロバー)

欠乏症は先ず先端部の生長が止まり、巻いて枯死する。次に最も生育の良好な葉全体に塩をふりかけたように小粒の白い斑点を生じ、症状が進むとこの症状は全体の葉に生ずる。この症状は他作物には見られない Red clover 特有の症状で、判別もし易い。

石灰が欠乏すると根の活性は減少し、脱落してゆく。収量に与える影響は他の要素欠乏中最も大きく、いちじるしく低下する。

土壌中には有効な石灰が多く、明瞭な石灰欠乏症状は圃場ではほとんど見られない。しかし充分な石灰の施与は牧草の根の活性を良好にし、さかんな養分吸収を持続するから、高位生産の上に望ましい。土壌中で石灰は移動し易く、追肥としても有効である。

写真 手の上1番上が正常葉、下3枚が欠乏葉。

### Alfalfa (ルーサン)

他の作物と同じく、欠乏症は、生長点が萎縮して枯死し、同時に生育の良好な葉に粟粒大の黄色の斑点が葉辺に現われる。また葉辺全体が黄色する葉も生じる。

Red clover 同様根の活性が減少するため茎葉全体の伸長は全く止まり、収量はいちじるしく減少する。

Alfalfaはとくに酸性土壌を嫌う作物であるからPH6.0以下の土壌に対しては充分なる石灰を施与しなければ高収量は望み得ない。

写真手の上右下が正常葉、その上右は生長点が欠乏によって枯死、左は欠乏葉の黄色の斑点、手の下の葉にも黄色の斑点が見られる。

